

# 動物園が採りうる経営形態の再整理

## 天王寺動物園



## 天王寺動物園が守るべき要件を考えるうえでの前提条件（案）

- |    |                         |
|----|-------------------------|
| I  | 大型の希少野生動物をメインのコレクションとする |
| II | 都市の魅力向上に貢献しうる動物園レベルの維持  |



## 経営形態を検討するための必要条件（案）

- ① 動物園の社会的な役割（種の保存・環境教育）に貢献できる
- ② 動物を健康的に飼育し、計画的な繁殖や導入を行いつつ、魅力的なコレクションを維持できる
- ③ 市民に開かれた運営を行う
- ④ 社会教育施設として市民理解の得られる料金設定で運営ができる
- ⑤ 充実した来園者サービスが提供でき、安定的な運営ができる
- ⑥ 国内外の動物園等と安定的な関係構築ができる



# 天王寺動物園が経営形態を検討するための必要条件とは②

## 経営形態を検討するためのポイント

- ① 動物園の社会的な役割（種の保存・環境教育）に貢献できる
- ② 動物を健康的に飼育し、計画的な繁殖や導入を行いつつ、魅力的なコレクションを維持できる
- ③ 市民に開かれた運営を行う
- ④ 社会教育施設として市民理解の得られる料金設定で運営ができる
- ⑤ 充実した来園者サービスが提供でき、安定的な運営ができる
- ⑥ 国内外の動物園等と安定的な関係構築ができる

経営形態検討にあたっては様々な手法が考えられるが、天王寺動物園の帯びている使命や条件を踏まえる必要がある。

すなわち、右の3要件が守られたうえで、可能なかぎり合理的な経営・運営が可能となる経営形態を模索していくことが求められる。

合理的な  
経営・運営  
(合理性)

レジャー・集  
客・都市魅力  
創造的要素

社会性

- ・教育機能を重視
- ・種の保存への取組み
- ・低廉な料金設定

継続性

- ・飼育技術の継承
- ・対外関係構築

安定性

- ・コレクション維持
- ・対外関係構築



# 採りうる経営形態の再整理

必要条件が満たせない形態は  
検討対象から除外

各形態	社会性	継続性	安定性	合理性	集客・リーダー
市直営	○	○	○	×	×
	現行どおり	現行どおり	現行どおり	運営の硬直性あり	ノウハウの蓄積×
地方独立行政法人	○	○	○	△	△
	事業維持を前提	事業維持を前提	事業維持を前提	自由度はあがるが、大幅な合理化は不可	直営より自由度は向上 民営に比べ劣る
地方公営企業	×	○	○	×	×
	相当程度の値上げが必須	現行どおり	現行どおり	自治体特有の運営の硬直性残る	ノウハウの蓄積×
指定管理者制度 ※公益財団等法人等へ非公募	○	○	○	△	△
	現行の維持を前提	長期の指定により継続性確保	長期の指定により安定性確保	民営に比べ劣る	直営より自由度は向上 民営に比べ劣る
指定管理者制度 ※広く民間から事業者公募	△	△	△	○	○
	社会性担保の条件付けが必要	一定程度市の関与を残す必要がある	一定程度市の関与を残す必要がある	民間事業者のノウハウ発揮	民間事業者のノウハウ発揮
公共施設等運営権制度(PFI)	△	△	△	○	○
	社会性担保の条件付けが必要	一定程度市の関与を残す必要がある	一定程度市の関与を残す必要がある	民間事業者のノウハウ発揮	民間事業者のノウハウ発揮
完全民営化	×	×	×	○	○
	相当程度の値上げが必須	経済情勢により左右	事業者変更リスク	民間事業者のノウハウ発揮	民間事業者のノウハウ発揮